

株式会社エイ・ピー・アイ

静岡県内初の特例子会社。印刷業を行いながら、重度障害のある人の自立を目指す!!

お話し 神田敬さん(代表取締役)

親会社：スルガ銀行  
所在地：沼津市小諏訪 30-1 ☎：055-925-1818  
従業員：22名 うち障害のある人 12名  
【内訳】 身体障害のある人 10名 知的障害のある人 2名



Q エイ・ピー・アイはどのような会社ですか？

障害者雇用という社会の要請に応え、地域の発展に寄与するため、重度障害のある人の自立を目的として静岡県、沼津市、スルガ銀行の協力のもとにつくられた特例子会社です。設立は1990年2月ですから、今年で満25年を迎えます。印刷業を行っており、印刷・データ作成・仕上げ・事務の4部門それぞれで障害のある人が活躍しています。一般企業における重度障害のある人の雇用機会はまだまだ少ない状況ですが、当社では

特に重度障害のある人に雇用機会を提供することで、社会的・経済的自立ができるようにと考えています。そのために、印刷などの技術の習得には力を入れています。

Q 障害のある人の雇用条件についてお聞かせください

「重度障害のある人の自立」が当社の理念です。そのため、障害のある人も健常者も変わらない雇用制度で仕事をしています。社名が意味する「A one Printing Institution (一級の印刷機関)」はその理念からきています。

しかし、聴覚障害のある人が電話を取るのが難しいように、障害によってできない作業があるのは当然のこと。当社では、障害のある人にとって無理のない作業で、習得できそうなものについては積極的に習得してもらおうと思っています。したがって、できる仕事はどんどん割り振っています。

Q 親会社との関係がうまくいっているのか？

親会社である銀行からは、伝票やパンフレットなどの印刷業務を受注しています。特例子会社を設立する際、業務については、

それまで外注していた部分を子会社に集約しようと考えました。印刷は作業工程がいくつかに分かれていますから、各々の工程に合った障害のある人を雇用できるメリットがありました。

印刷業界は非常に競争の激しい業界です。1円でも安く印刷したいというのが、一般的な企業の考えです。しかし、当社は障害のある人に自立してもらい、技術を習得してもらうことを重視しており、親会社もそこを理解したうえで発注しています。これが25年もの間、障害者雇用と会社の運営を両立できた理由だと思います。



梱包作業は専用の機械を使って正確に行っています。



専門的な四色刷りの機械も導入。より本格的な印刷が行えます。

裁断機は手を入れてしまってもセンサーで止まります。

フロアには聴覚障害のある人に合わせて回転灯も設置しています。



事務作業の様子。車いすで作業する人のために、通路を広くしています。

親会社から名刺作成の依頼があると、データを作成し、印刷のもととなる版を作成。



印刷したものの折り込み作業や封入作業。部数毎にまとめ、数え間違いのないようにしています。



障害を当たり前と考えて、お互いにサポートしよう  
当社では聴覚障害のある人が多く働いています。設立当初はコミュニケーションの問題が生じることがありました。そこで、社員たちから手話を覚えようという動きが自主的に生まれ、今では隔週で簡単な手話を覚える勉強会を開催しています。そのおかげもあり、手話ができる社員は5、6人います。朝礼の際に、私が話をする時には、手話のできる社員が通訳してくれるほどです。障害があるのは当たり前、そこを埋める努力を行うのも当たり前だと私は思っています。



窓が多く明るい休憩室は、電動車椅子を利用している人のために机を高くしてあります。

2003年に職場環境が再整備されました。



マネージャーの  
柴田あゆみさん

会社の人事・総務、社員の労務管理などを担当しています。社員と同じ目線であることを心がけており、ちょっとした心配事などをいつでも相談できる身近な存在と思ってもらえれば嬉しいです。社員の皆さんからは、日々小さな感動をもらっています。個性あふれる社員に負けず、しなやかに生きたいですね。

業務内容

主にグループ内企業の事務代行サービスを行っています。データ入力、印刷、封入・封緘、発送手配、伝票処理、福利厚生制度の運営支援等、雇用数の拡大と共に業務の幅も広がってきました。

社員の能力・特性に合わせた仕事を担当させると同時に、相互に補い合える体制をつくることが重要と考えており、採用する社員のプロフィールを多様化させています。既に在籍している社員も、今までと違う仕事に取り組むという挑戦と成長を大事にして欲しいと思っています。

1日仕事するのは大変です。体力も使います。8か月たってやっと仕事楽しく思えてきました。昼休みは職場の方々と一緒に食事をしながら世間話をしています。皆さんいい方ばかりです。時々5～10分ほど仮眠をとって、午後の仕事に備えることもありますよ。

郵便物の開封、仕分け作業。



桐林優子さん。データ入力・チェックの仕事を担当しています。

廊下には手すりを設置、トイレには引き込み戸を採用するなどの配慮がなされています。



新入社員の  
小川ネルソン孝慈ジュニアさん

株式会社ヤマハアイワークス

社員一人ひとりが仕事を通して自信と誇りを持つと共に、社会人として自立した生活を営むことができるよう支援

お話し 竹ノ内時彦さん(代表取締役社長)

親会社：ヤマハ株式会社  
所在地：浜松市中区中沢町10-1 ☎：053-460-1665  
従業員：46名 うち障害のある人38名  
【内訳】身体障害のある人26名 知的障害のある人3名 精神障害のある人9名



Q ヤマハアイワークスはどのような会社ですか？

1989年にヤマハ株式会社の子会社として設立されました。

「社員一人ひとりが仕事を通して自信と誇りを持つと共に、社会人として自立し、健全で安定した社会生活を営むことができるよう支援する」という企業理念のもと、データ入力や封入・封緘、印刷、福利厚生に関する事務などの事業を通じて、障害者雇用の推進と働きやすい職場環境の整備を推進してきており、1992年、静岡県では2番目となる特例子会社に認定されました。

2014年6月1日現在、ヤマハ株式会社の障害者雇用数は85名で、うち38名がヤマハアイワークスに在籍しています。

雇用率については2009年度以降2%台で推移しており、「障害者の雇用の促進等に関する法律」における2013年4月以降の水準を安定的に維持しています。こうした状況をつくり出しているのは、親会社の人事部門にダイバーシティ推進担当マネージャーを置き、グループ全社の職域拡大、雇用促進をサポートする体制をとっているためです。

また、地域社会全体としての障害者雇用促進に貢献するため、職場見学、実習の受け入れ、障害者職業生活相談員資格認定講習会への講師派遣などにも協力しています。

Q 仕事を進めるうえで、心がけていることは？

障害のある人に生きがいを持って仕事をしてもらうために、全員が細かいことでも意見

を言い合い、知恵を出し合い、10歳代から60歳代まで、年齢、性別、障害の違いを認め合いつつ協力する職場づくりを目指しています。

また、すべての職員が、障害のある人に近い立場で一緒に仕事をしていきたいと思っています。障害があっても、ワンステップ上の仕事を目指し、モチベーションを高く持てるのが、ノーマライゼーションの実現につながると考えています。

職場の雰囲気は家庭的ですが、時には厳しさも必要です。従業員一人ひとりが他者の役に立つことを誇りに思い、能力を発揮できる職場でありたいと思っています。

境づくりのために再整備を行いました。当社は身体に障害のある人が多く、専用駐車場の確保、専用トイレの増設、玄関やトイレの自動ドア設置などさまざまな配慮が施されています。またオフィス環境も車椅子がすれ違えるスペースを確保しており、ユニバーサルデザインを前提にしています。

障害のある人の就労時間は毎日7時間で、それを採用の条件としています。そのためにも働く環境は重要と考え優先順位を上げて対応しています。

充実した設備投資を一か所に集中でき、同じような障害のある人が、一緒に仕事をしています。指導員なども効率的な配置が可能になる。これが特例子会社の大きなメリットであり、ひいては障害のある人の定着率の向上にも寄与していると思います。

Q 障害のある人のためにさまざまな配慮がなされているそうですね

2003年の会社移転を契機に、働きやすい環

矢崎ビジネスサポート株式会社

多くの社員がジョブコーチや障害についてのセミナーに参加。障害のある人が安心して働ける職場に

お話 河崎 力さん (主査)

親会社：矢崎総業株式会社  
所在地：裾野市御宿 1500Y-CITY ☎：055-965-3000  
従業員：50名 うち障害のある人18名  
【内訳】 身体障害のある人7名 知的障害のある人10名 精神障害のある人1名



Q 矢崎ビジネスサポートではどのような仕事を障害のある人に任せていますか？

当社は親会社の総務部業務を請け負う子会社として2004年4月に設立。翌年2005年4月に特例子会社の認可を受けました。

身体障害のある人は事務関連業務、知的及び精神障害のある人は主に福利厚生業務に従事しています。

矢崎グループ各社だけでなく他社との交

流を通して、障害者雇用のモデル会社、自分で稼ぐ自立した会社としての成長を目指しています。また、リサイクル部門では環境への取り組みと同時に、アルミ缶処理益の一部を環境・福祉団体に寄付することで地域社会に貢献しています。

Q 障害のある人に対する支援体制が充実していますね

障害のある人の特性をより理解するため、多くの社員がジョブコーチ・相談員資格の取

得や、セミナー・講習会、他社見学・交流会などに参加しています。専任のジョブコーチに任せるのではなく、社員全員が支援者、よき相談相手となり、障害のある人の就労をフォローしているのです。社員全員参加で特例子会社を盛り上げる態勢をつくっています。そうすることで障害のある人も安心して働けます。

Q 実習や配属先の決め方を教えてください

入社前に経験した訓練校・就労支援団体

の訓練内容や、本人の経歴から特性を判断し、実習内容を決めます。その後、本人の強み弱みをみて、能力を最大限に生かせる仕事に配置していきます。仕事に関する資格取得や講習会にも参加してもらい、ステップアップのための意識改革、動機づけを行っています。

特性を生かした仕事に就いた障害のある人は矢崎ビジネスサポートにとってかけがえのない人材です。

2人でやっていた清掃作業が一人でできるようになった時は嬉しかったです。プロ意識が芽生えました。それに、清掃している部屋の人から感謝の言葉をもらった時も、やりがいを感じました。外部での講習会に参加させてもらったり、清掃以外の仕事も経験させてもらい、自分自身の勉強とステップアップにつながっていると思います。



社内メールの収集や配送は車でいきます。



聴覚障害のある人が経理事務を担当しています。



リサイクルに出す前の分解作業を行っています。



手紙や封筒を宛先の部署ごとに区分していく作業。部署と棚の位置は完璧に記憶しています。



アルミ缶を回収し、業者に渡す状態までに加工するリサイクル業務。



2号ジョブコーチの伊達幸子さん(写真中央)。社員と真摯に向き合うことで、信頼を得ています。

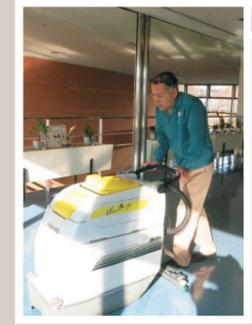
矢崎ビジネスサポートで社員をとりまとめる河崎力主査。



清掃を請け負っている親会社の厚生棟と社員寮。



勤続5年7か月の佐藤敏康さんは清掃担当。



厚生棟の床を機械を使い清掃。

株式会社スズキ・サポート

事業をスタートして 10 年目を迎え 49 名の仲間が  
ひとつのチームで頑張っています

お話 寺田道夫さん(管理部長)

親会社：スズキ株式会社  
所在地：浜松市南区高塚町 300 ☎：053-447-6778  
従業員：72 名 うち障害のある人 49 名  
【内訳】 身体障害のある人 6 名 知的障害のある人 42 名 精神障害のある人 1 名



Q スズキ・サポートはどのようなことをしている会社ですか？

2005 年 2 月に設立された特例子会社スズキ・サポートは事業をスタートして 10 年目を迎えました。

現時点で 49 名の障害のある人を迎え、知的障害のある人は 42 名（うち重度 28 名）、身体障害のある人は 6 名（うち重度 3 名）、精神障害のある人は 1 名となっています。

業務内容は、清掃業務、文房具類の管理など指導員と一体となり、県内を中心に 14 か所の拠点で活動しています。全員が毎日明るく元気に働く姿は、スズキの従業員からも共感と喜びを持って迎えられています。

また、2011 年 4 月より農業事業を開始しまし

た。農業事業の趣旨としては、収穫した野菜は親会社であるスズキ株式会社の社員食堂の食材として、また社員販売にも使用する「自産自消」の振興、障害者雇用の促進などがあります。

高齢化などで耕作できなくなったり、耕作放棄地となったりした農地 7 か所（計 113a）を借りており、露地で野菜の栽培を行っています。

2015 年からはビニールハウス内でベビーリーフの栽培も計画しています。とはいえ農業事業の障害者雇用は今のところ 1 名です。

スズキでは、スズキ・サポート設立の理念である社会貢献の一環として、障害のある人々が働くことのできる喜びや、社会参加によって人間の成長を感じることができるよう、今後も積極的に障害者雇用に取り組んでいきたいと思っています。

Q 年に一度、盛大な社員家族交流会があるそうですね

障害のある人のご家族や特別支援学校などの先生や就労支援施設の方々をお招きし、交流、親睦を目的とした食事会を市内のホテルで行っています。

障害のある人の親御さんと指導員とが、日頃の仕事ぶりや要望を話し合ったり、情報交換をしたりする機会となっています。

この交流会ではビンゴゲームやカラオケ大会の余興もあるんですよ。進行役は、知的障害のある社員も率先して行っており、和気あいあいとした雰囲気のイベントとなっています。

Q 定着の秘訣を教えてください

各業務とも障害のある社員 3 名に対し、指導員 1 名を配置することを基本としています。指導員の採用に当たっては、これまでの障害者雇用の経験を重視するよりも、むしろ人当たりが柔らかく、障害のある社員がコミュニケーションを取りやすいだろうと判断した人材を採用しています。

また毎日出勤時と業務終了時には休憩所に全員が集まるようにしています。朝は連絡事項の伝達とあわせて、健康状態などにも気を配っています。顔を見ればその日の状態がある程度わかります。

勤務時間は、8 時 45 分から 15 時 30 分（実働 6 時間）で、夕刻の帰宅ラッシュを避けて、障害のある人の負担を軽減しています。



働くことができる喜びを感じているという社員の声が聞こえます。



お話をお聞きした管理部長の寺田道夫さん。



一人ひとりが責任を持って仕事に取り組んでいます。

本社と本社工場の清掃を担当している社員の皆さん。



社員家族交流会でのカラオケ大会。



高柳和生さん

今は仕事でもプライベートでも充実しており、やっと自分のアイデンティティがわかった感じがしています。職場も自分の意見が言える環境にあり、気持ちも落ち着いていて体調もいいですね。



水田理恵さん



収穫したキャベツの出荷作業。畑にいと時間を忘れます。